

北限のウラジロガシ：最後に生き残った一株も絶滅

新潟県におけるウラジロガシの分布は、越後では頸城から蒲原までの海岸に近い低所に限られ（浅見 1980）、離島の佐渡では小佐渡にやや広くみられ、大佐渡では稀である（笹川 2001）。県の北部で分布は稀になり、新発田市、北蒲原郡加治川村・中条町・黒川村、岩船郡荒川町・神林村などでは、海拔100m以下にほぼ限って生えている。そして、岩船郡粟島浦村で分布の限界となっている（池上 1972）。粟島では、ウラジロガシを伐採して舟材として利用していたと、植物調査時に聞いた記憶があるが、確かめていない。どの程度過去に生育していたか不明であるが、最後の一株が、内浦（宮口、見山）海拔10mに生育していた。池上義信先生と共に粟島の植物調査を行った1970年6月1日に生育地を確認し、その後粟島を訪れる度毎に確認してきたが、1990年11月5日に現地で写真を撮影したのが最後となり、その後伐採され、絶滅してしまった。

写真撮影時に測定した樹の大きさは、根元幹周 140cm、地上 60cmで三ツ又に分かれ、それぞれ幹周76cm、81cm、62cmの太さであった。樹高約 7m、樹冠の直径約 7mで、樹勢も旺盛の状況であった（新潟県 1993）。

生育地の周辺にはマダケが主で、ヤマグワ、ガマズミ、ヒメコウゾなどの低木があり、ヤダケが混生し、周辺には次のような植物が生育していた。

アカソ、ウワバミソウ、カラムシ、ミズヒキ、ダイコンソウ、ヘビイチゴ、ヌスビトハギ、オオタチツボスミレ、キツタ、ミツバ、ハエドクソウ、オオヒナノウスツボ、ヒョドリバナ、ヤマノイモ、トコロ、ホソバカンスゲ、ミゾシダ、イヌワラビ、オクマワラビ

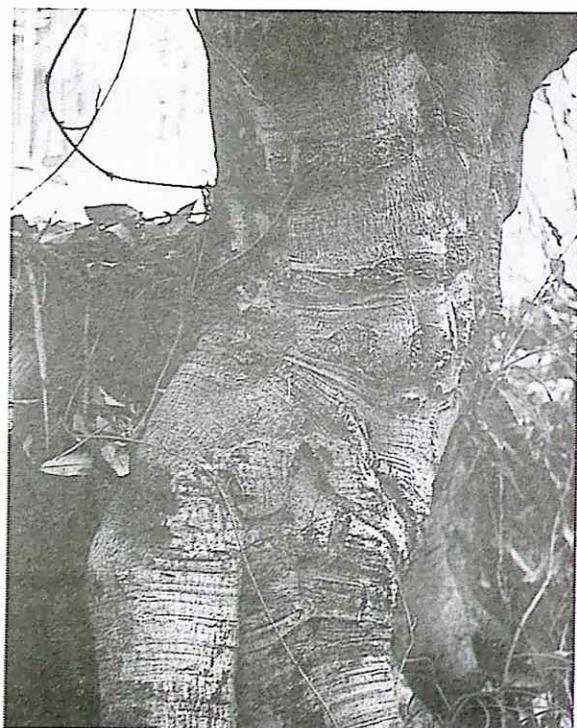
この一株が「粟島における最後」と記したが、完全に絶

滅したかどうかは、さらに現地の調査が必要であろう。多くの方々に関心を持って頂きたいと思い、「最後に生き残った一株」とあえて強調したが、まだ別の株が生存している可能性がある。訪れる機会のある方は注目して調べ、生存を確認したら、情報を寄せて頂きたい。

なお、ウラジロガシは新潟県で北限になっていることから、分布限界付近の生育地保護のために、県のレッドデータブックでは、地域個体群に指定している（新潟県 2001）。

下の写真（左）は、根元近くの状況を写したもので、実際で分岐しているのは、根の部分である。この樹木は斜面上部の縁に生えていて、一部の土砂が流失して根元が露出していた。また、写真（右）は樹冠の広がりの一部であり、枝葉がよく茂って樹勢が良好であるとみられた（いずれも1990年11月5日に撮影）。

- 浅見 賢 1980 新潟県植物分布図集 第1集：29 - 31.
植物同好じねんじょ会
- 池上義信 1972 粟島の植物 新潟県文化財調査年報
第11：139 - 214. 新潟県教育委員会
- 新潟県 1993 続・新潟のすぐれた自然 植物編：385～
386 [粟島のウラジロガシ (石沢 進)]
- 新潟県 2000 レッドデータブックにいがた - 新潟県の
保護上重要な野生生物
- 笹川通博 2001 新潟県佐渡における植物分布図集 暖温
帯性常緑植物 新潟県植物分布調査記録
4：85 - 87. 新津植物資料室
(石沢 進)



ウラジロガシの生育状況 (1990年11月5日)